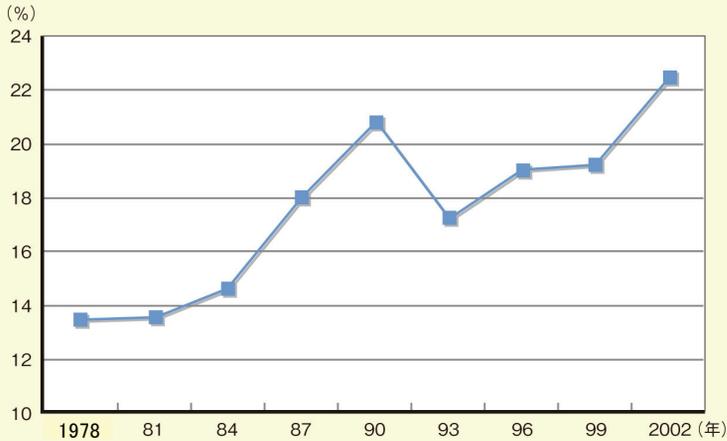


【注 1】国民の格差感

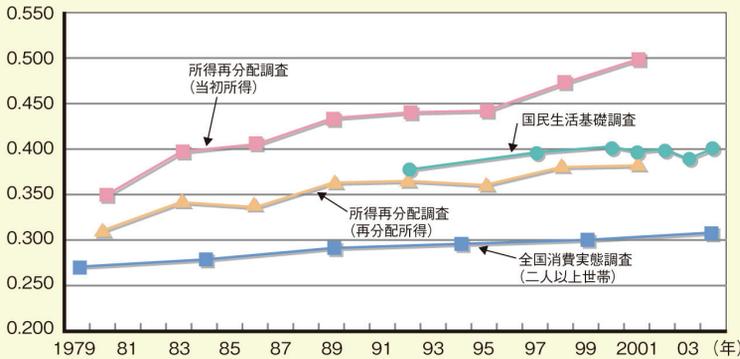
■ 収入や財産の不平等感が増大している



出典：『国民生活基礎調査』（内閣府）

【注 2】所得分配の不平等度を表すジニ係数

■ 80年代以降緩やかに上昇している

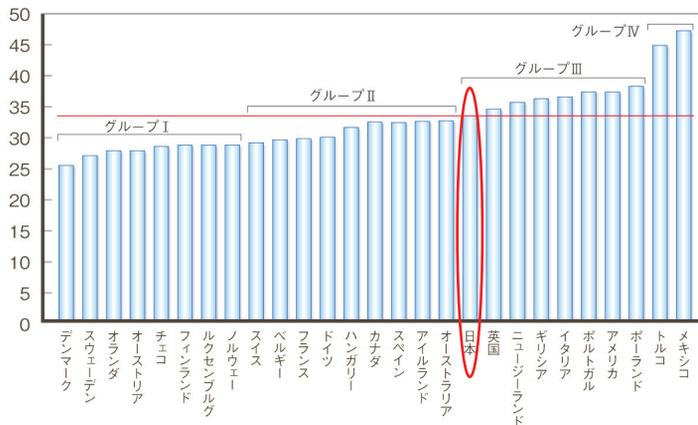


出典：『全国消費実態調査』（総務省）、『所得再分配調査』（厚生労働省）、『国民生活基礎調査』（厚生労働省）

ジニ係数

社会の所得分布の偏りを測る指標。係数の範囲は0から1で、0は全員が同じ所得を得ており、1なら一人が全所得を独占している状態を示す。係数の値が0に近いほど格差が少ない状態で、1に近いほど格差が大きい状態であることを意味する。

■ 国際比較でみると、日本のジニ係数はOECD諸国間では中位程度。米英を含む中上位グループ内では最下位。



（備考）

- 1) グループ I：北米諸国を中心とする下位グループ
グループ II：西欧諸国を中心とする中下位グループ
グループ III：米英諸国を中心とする中上位国グループ
グループ IV：上位グループ

2) 家計可処分所得を用いている（世帯人員数調整後）

3) 数値は2000年の値。ただし、オーストラリア、オーストリア、ギリシアは1999年の値。ドイツ、ルクセンブルグ、ニュージーランド、スイスは2001年の値。チェコ、メキシコ、トルコは2002年の値。ベルギー、スペインは1995年の値。

出典：OECD

【注 3】生涯賃金の国際比較

■年齢計の格差（平均／中位）－日本を含め7ヶ国

※数値が大きいほど格差が大きい

	日本 2004年	イギリス 1994年	スウェーデン 1996年	フィンランド 1996年	アメリカ 1996年	オーストラリア 1996年
年齢計(倍)	1.108	1.165	1.137	1.116	1.230	1.157

(備考)

1) 男性労働者の賃金

2) 日本は所定内給与、2004年

出典:『賃金構造基本統計調査』(厚生労働省)、OECD Labour Database

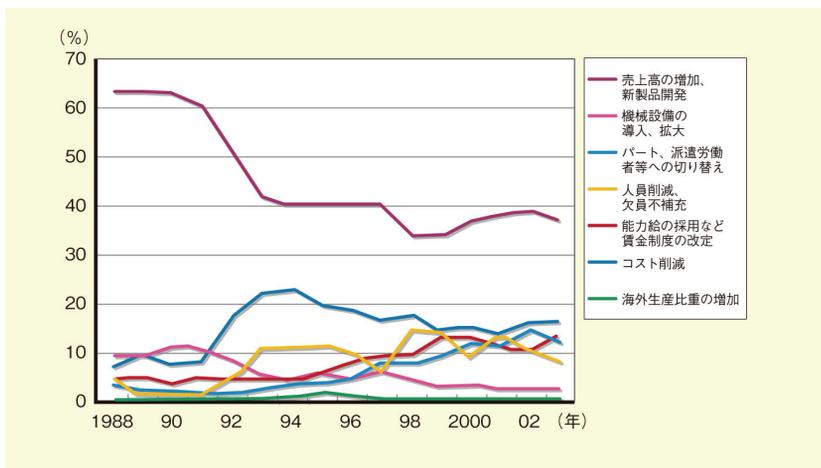
【注 4】若年層の失業率

■若年層の完全失業率の推移

	1985	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
全世代 合計	2.6	2.1	3.2	4.7	5.0	5.4	5.3	4.7	4.4	4.1
15-19 歳	4.8	4.3	6.1	9.1	9.6	9.9	10.1	9.5	8.7	8.0
20-24 歳	2.8	2.4	3.8	5.6	6.0	6.4	6.3	5.7	5.6	5.2

出典:『労働力調査』(総務省統計局)

■人件費の負担削減のために最も力を入れる対策※



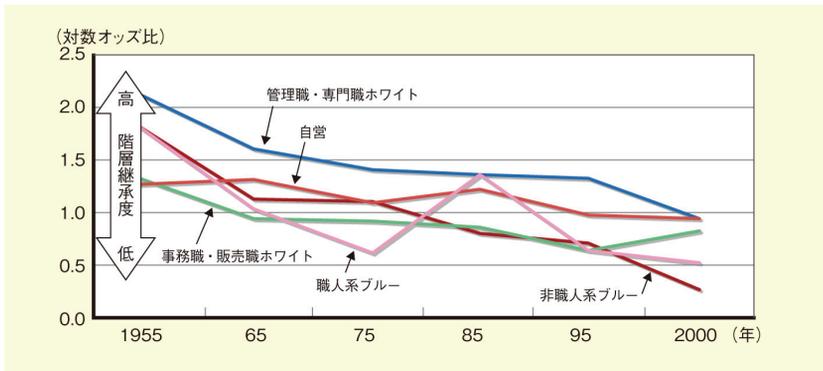
※賃金の改定を実施または改定を予定し、額も決定している企業が対象

出典:『H15賃金引上げ等の実態に関する調査』(厚生労働省)

【注 5】対数オッズ比

■階層継承度合いの推移

階層の継承度合いは安定的に推移



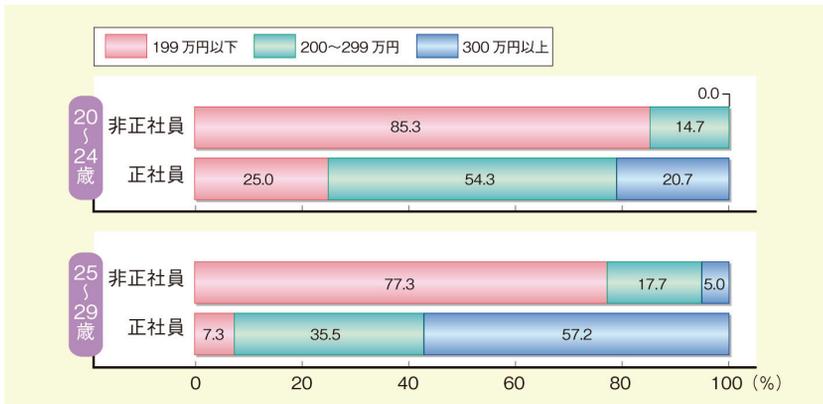
出典:『平成18年度年次経済財政報告』(内閣府)

オッズ比

ある事象の起こりやすさを2つの群で比較して示す統計学的な尺度のこと。左図の場合、父親がある職業についているかどうかで、子どもがその職につきやすいかどうかを表している。数値が大きくなるほど、親からの継承性が高いことを示している。

【注 6】正規雇用者と非正規雇用者年収比較

■年収の比較



出典:『若年従業者アンケート』『若年アルバイト勤務者アンケート』<2005年11月>(株式会社野村総合研究所)

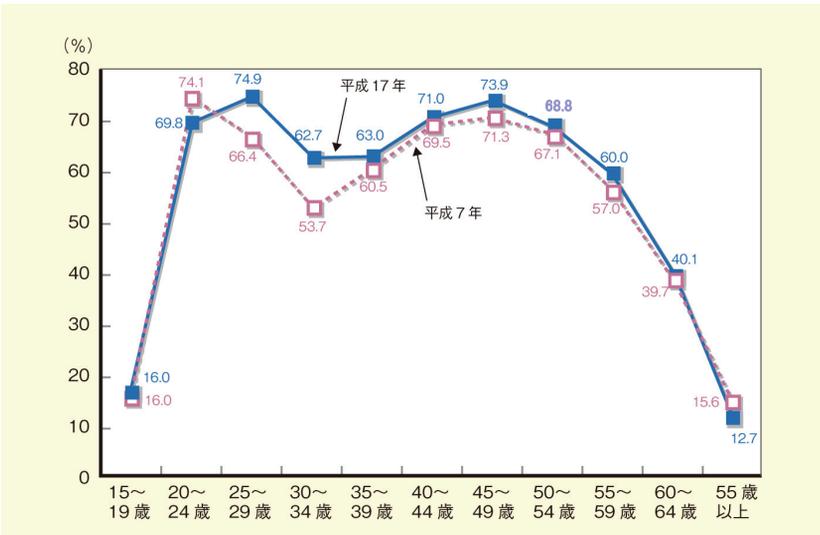
【注 7】若年層の天職幻想志向及び自己実現意欲

■フリーター500人に聞いた「フリーターになった理由」(複数回答)

自由な働き方がしたかった	自分に合う仕事への準備期間	就きたい仕事への準備期間	正社員で採用されなかった	仕事以外にしたいことがある
36%	25%	23%	18%	18%

出典:『関東・関西のフリーター500人への意識調査』(関西社会経済研究所)

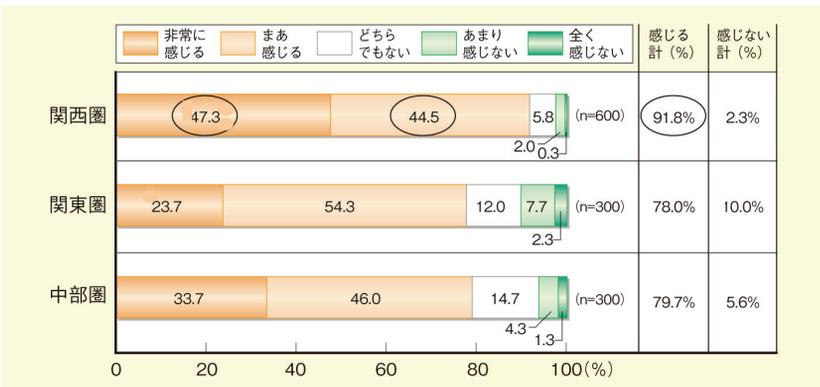
【注 8】 M字型傾向を持つ女性の就労



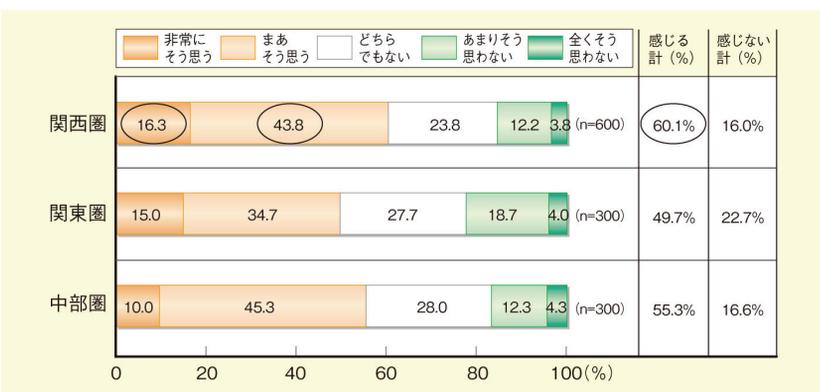
出展：『労働力調査』＜平成7、17年＞（総務省統計局）

【注 9】 地域社会の連携志向が強い関西

■ 【地元への愛着度】 関西人は地元への愛着度が高い



■ 【地元経済に対する考え方】 自分の仕事を通じて、地元の経済を良くしたいと思う



出典：『理想は共感共生型『和力社会』～関西には大きなポテンシャル～三大都市圏意識調査』（関西社会経済研究所）